

◆ その後の動向

2005年の日中関係はマイナス要因が噴出し、重苦しい空気に包まれましたが、救いとなったのが卓球の福原愛。その屈託のない自然な溶け込み方が中国人には大変な人気で、同年7月28日から東京で開催された日中友好写真展の開幕式では、和服姿の愛ちゃんがジャッキーチェンと手をつないでほほえむ姿が大きく報道されました。また、友好の絆を断ち切らないための真摯な努力も多く、張芸謀の『単騎、千里を走る』（“千里走単騎”）に出演した高倉健は大好評でしたし、故団伊玖磨氏の『パイプのけむり』中訳本が出版され、小沢征爾氏は自身が主宰する音楽塾へ32名の中国人学生を受け入れたりしました。

また、環境問題が深刻な中国では、環境問題先進国日本が格好のお手本になってます。その旺盛な学習意欲は高まる一方で、2003年実施の<改定エネルギー節約法>や、エネルギー節約技術の企業・市民生活に対する浸透例などが詳細に伝えられています。また、北京オリンピックや上海万博を控え、都市のインフラ整備が焦眉の急となっていて、下水道と汚水処理・水源管理・農業用灌漑・工業用水・生活用水など日本の水行政の管理システムや関係法律の整備にも大きな関心が寄せられています。